

**製品名: FAS (リン酸化 Tyr291) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04667**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	FAS
別名	FAS; APT1; FAS1; TNFRSF6; Tumor necrosis factor receptor superfamily member 6; Apo-1 antigen; Apoptosis-mediating surface antigen FAS; FASLG receptor; CD antigen CD95
遺伝子 ID	355.0
SwissProt ID	P25445
免疫原	抗血清は、ヒト FAS の Tyr291 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 257-306

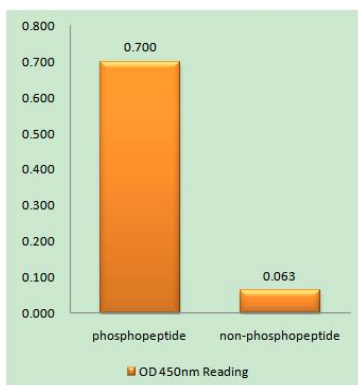
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、TNF 受容体スーパーファミリーのメンバーです。この受容体はデスドメインを有し、プログラム細胞死の生理的制御において中心的な役割を果たすことが示されており、様々な悪性腫瘍や免疫系疾患の病因に関与していることが示唆されています。この受容体とそのリガンドとの相互作用により、Fas 関連デスドメインタンパク質 (FADD)、カスパーゼ 8、およびカスパーゼ 10 を含む細胞死誘導シグナル伝達複合体が形成されます。複合体中のカスパーゼの自己タンパク質分解プロセッシングにより下流のカスパーゼカスケードが誘導され、アポトーシスが誘導されます。この受容体は NF- $\kappa$ B、MAPK3/ERK1、および MAPK8/JNK を活性化することも示されており、正常な二倍体線維芽細胞および T 細胞における増殖シグナルの伝達に関与することが分かっています。選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが複数報告されています。疾患: FAS の欠陥は、自己免疫リンパ増殖性症候群 1A 型 (ALPS1A) [MIM:601859] の原因です。Canale-Smith 症候群 (CSS) としても知られています。ALPS は、溶血性貧血と血小板減少症を伴い、リンパ節腫脹と脾腫を伴う小児症候群です。ドメイン: FADD の結合に関与するデスドメインが含まれており、他の細胞質アダプタータンパク質にも関与している可能性があります。機能: TNFSF6/FASLG の受容体です。アダプター分子 FADD は、活性化受容体にカスパーゼ 8 をリクルートします。結果として生じる細胞死誘導シグナル伝達複合体 (DISC) は、カスパーゼ 8 のタンパク質分解活性化を行い、これがアポトーシスを媒介するカスパーゼ (アスパラギン酸特異的システインプロテアーゼ) のカスケードを開始します。FAS を介したアポトーシスは、末梢寛容の誘導、成熟 T 細胞の抗原刺激による自殺、またはその両方に関与している可能性があります。分泌されたアイソフォーム 2~6 はアポトーシスを阻害する (in vitro) 。,オンライン情報: ALPS Ia 型を引き起こす TNFRSF6 の変異,類似性: デスドメインを 1 つ含む。 ,類似性: TNFR-Cys リピートを 3 つ含む。 ,サブユニット: DAXX に結合。HIPK3 と相互作用する。HIPK3 と FADD を含む複合体の一部 (類似性による) 。RIPK1 および FAIM2 に結合。BRE および FEM1B と相互作用する。 ,組織特異性: アイソフォーム 1 とアイソフォーム 6 は、休止期末梢血単核細胞において同レベルで発現している。活性化後、アイソフォーム 1 が増加し、アイソフォーム 6 のレベルが減少する。 ,

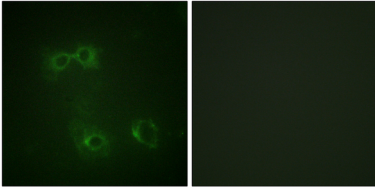
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;p53;アポトーシス抑制;ミトコンドリアのアポトーシス;アポトーシスの概要;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;I 型糖尿病;アルツハイマー病;がんの経路;自己免疫甲状腺疾患;同種移植片拒絶;移植片対宿主病;

## 画像データ



FAS (リン酸化 Tyr291) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



FAS (リン酸化 Tyr291) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。